



# チーム 新課程 学年主任

Supported by  
ベネッセ文教総研

1月

2月

のポイント

本コーナーはハイスクールオンラインの〈先生SNS〉のコーナーと連動しています。〈先生SNS〉では、詳細の情報・資料をご提供しています。また、先生方が直面される課題やその解決方法の共有の場としてもぜひご利用ください。

## ハイスクールオンライン 〈先生SNS〉

<https://teacher.benesse.ne.jp/>



※ハイスクールオンラインのIDをお持ちでない先生は、校内でご確認いただくか、WEBサポートデスク0120-350124までご連絡ください。

【受付時間】  
月～金 8:00～18:00 / 土 8:00～17:00  
(祝日、年末・年始を除く)

### ここからお入りください

ほかの先生に相談したい時は⇒相談室へ  
使える資料で負担軽減⇒資料室へ



# 生徒を多面的に捉えて総括し、第2学年に向けて準備する

「師も走る」12月、先生方におかれましては、一層ご多忙な日々をお過ごしかと存じます。

年明けには大学入学共通テストが実施されます。「あと2年」という実感も強くなる1・2月の指導ポイントについてまとめてみました。

1月は、次年度の年間計画・シラバスなどの作成準備に取りかかり始める時期です。先日公表された試作問題を校内で分析し、ここまでの指導を振り返って、計画通りに進んでいることと、十分に進んでいないことを整理し、第2学年に向けての体制づくりを検討することが求められます。改めて、自校で育成したい資質・能力とその育み方を、学年団として共通認識をもつことができるような場を設定してはいかがでしょうか。期末考査や実力テスト、校外模擬試験の結果なども踏まえ

て、それぞれの学校に合った2学年の指導方針を作成していただきたいと思えます。

入試に対する生徒の意識づけも重要です。共通テストの中から1年生でも解ける問題を抽出して取り組ませたり、1月に実施される「ベネッセ総合学力テスト」の結果を面談に活用して、基礎学力定着と苦手克服を目的とした学習計画を生徒に立てさせたりするのも一案です。

1・2月は、生徒の学力や学習習慣、生活習慣、進路希望など多面的に生徒を捉えて総括し、これからの見通しを立てる、とても重要な時期です。そして、3月は1・2月で考えたことを具体的に形にする時期になります。2学年に向けた準備ができるだけ早く進められるかどうかは、この1・2月にかかっているのではないのでしょうか。

## 1・2月のチェックポイント

数か月先を見通した新課程初年度学年ならではのポイントです。詳細は [ハイスクールオンライン〈先生SNS〉](#) でご覧ください。

## 1~2月

### 2年次前半の指導の方向性を考える

- 1年間のまとめ・総括(生徒視点・教師視点)
- 学力・学習習慣・生活習慣の振り返り(1月実施「ベネッセ総合学力テスト」と「スタディサポート2年1回」の連携した活用)
- 地理歴史の「総合科目を「探究」科目にどうつなぐのか
- 教科・情報をどのように取り扱うか(2・3年次でどう取り扱うか)

### 新課程入試の留意点を踏まえる

- 入試科目の公表状況に応じた次年度以降の指導計画・内容を考える
- 試作問題を分析し、教科を超えて重要な指導ポイントを整理する(読解力など)
- 生徒や保護者に伝えたい科目選択のポイントと学習のポイント

テーマ

コンテンツ例

## 「情報交換会」 レポート

### 新課程1期生の学年運営で 大切にしていることを 先生方が話し合いました

先生方が濃密に情報交換できる場として、9月からオンラインで「テーマ別情報交換会」を開催しています。11月には、「新課程1期生の学年運営において、今、大切にしてい

## チームの仲間へmessage

### 学年運営は分掌を意識した引き算で！ ゴールである「進路実現」に向けて 教員の「得意」を引き出す



## 廣瀬和美

埼玉県・私立開智未来中学・高校 1学年主任

**学**年主任の役割は、進路指導や生活指導、教科指導、探究や学年にかかわる学校行事

の運営など、全業務の舵取りをすることです。新課程入試を見据えた事前準備や、コロナ禍で生じた問題も多い中、時機を逸することなく、各業務を学年団の先生方に適切に配分していく見極めが重要です。そのためには、先生方の仕事の様子を日々拝見しながら（観察6割、対話4割程度）、各々の適性や得意分野を把握することが欠かせません。生徒指導に不安を抱えている教師がいたら、「ゴールは進路実現です。そこに至る道筋をしっかりと立て、生徒の話に耳を傾けてください」などと、最終目標を見失わないような声かけに努めています。学年団全員が同じゴールを見据えていれば、仮に小さな失敗があっても、その後の問題解決にチームであることができ、対応にも多くの時間はかかりません。先生方には、臆することなく、新しい挑戦をしていただきたいと思います。

本校は、中高一貫生と高校からの入学者とで学力差や経験差があります。その溝を埋め、希望進路に導いていくため、様々な取り組みを行っています。教職員全員が生徒一人ひとりのメンターとして参加する1年次のゼミ活動「才能発見プログラム」、2年次の海外フィールドワーク、毎年2月に中学1年生から高校2年生までが一堂に集まり、各学年で学んだことを発表し合う「未来TED（探究活動集大成）」、本校伝統の科目である「哲学」の授業……。いずれの取り組みにおいても、先生方の得意分野を発揮してもらえるように事前準備をし、早めに具体的なお願いをすることで負担感を軽減しながら、生徒に探究活動を進めるための素地を培っていきたくと考えています。

ること」を先生方が語り合いました。22年度の1学年主任ならではのテーマとして、「コロナ禍での生徒支援」「大学入学共通テストに向けたカリキュラム改訂」「総合的な探究の時間の企画・運営」などが挙げられました。生徒支援では、中学校時代に様々な活動に取り組みなかつた分を取り戻すかのように、学校行事・部活動に打ち込む生徒がいる一方で、2学期中盤になって、疲れが見え始めた生徒もいるという声がかれまされた。さらに、「2単位科目が増え、履修科目数が増加したことで、生徒の学習上の負担感が増している。年

度末の調査まで息切れしないように対策を考えたい」と、3学期の留意点を語る先生もいらっしゃいました。先生方に共通したのは、これまで以上に面談を重視していることでした。担任、教科担当、部活動顧問と連携して気になる生徒を抽出し、学年主任が面談を行う仕組みをつくり、学年主任が廊下で会った生徒とミニ面談を毎日繰り返していき、様々な工夫が紹介されました。そのほか、「探究的な学びに誘う授業での問い立て」に力を取り入れた取り組みなど、様々な話題で学年主任の先生方が語り合いました。

### ◎「テーマ別情報交換会」で話し合われたテーマ

1	新課程1期生をとりまく環境変化	コロナ禍、ICT教育、新課程、新課程大学入試、総合型・学校推薦型選抜の拡大など
2	新課程1期生の特徴	意欲的にグループ活動や対面での行事に参加する生徒が多い一方で、コロナ禍等の影響による長期欠席者や、自己肯定感が低い生徒も増加する現状
3	学年運営や教師間連携の工夫	ICT活用、総合的な探究の時間・LHRのあり方、カリキュラム遂行のための調整
4	学年主任としての生徒とのかかわり方	面談資料作成、学年主任面談の工夫、生徒への寄り添い方の工夫